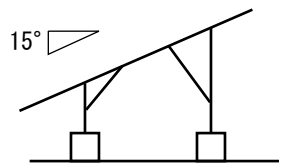
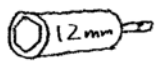


SIソーラー 地上用架台（L アングル式） 15°



（準備するもの）

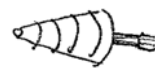
- ① インパクト……ビス締め
- ② ソケット 12mm……ビス用, ソケット 19mm……アンカーボルト用ナット



- ③ 鉄工キリ……穴が万が一、合致しない場合や、パワコン用アングルを取り付けるために現場で穴を開ける時に必要。



6.5φ
8φ



このようなビットがあります。
この形状のキリ先が
穴を開けやすいです。

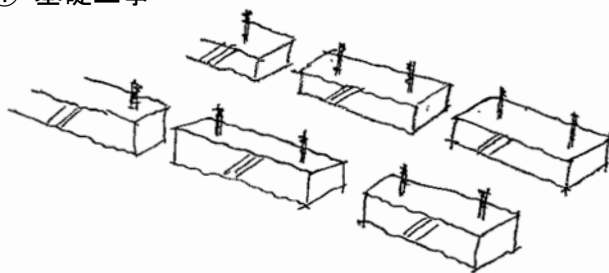
- ④ 防錆用スプレー
- ⑤ アンカーボルトナット用レンチ 19mm（インパクトで締められない時あり）
- ⑥ 水系
- ⑦ 組立図面

その他：基礎のアンカーボルト用のナット、ワッシャなど。

※ワッシャは厚手のものの方が良く、基礎のレベルが悪い時にはこのワッシャなどで調整します。

（施工手順）

- ① 基礎工事



架台の前脚用基礎、後脚用基礎と分けて設けるように標準としています。

連続で造ってもかまいませんが、水が流れて溜まらないように、途中でカットしています。

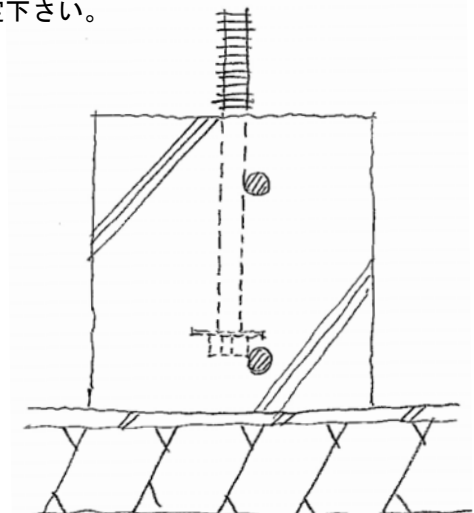
捨コンは一本通して流し打設行い、型枠を両側通して間に堰板を入れるという方法が、施工しやすいです。

基礎の寸法は標準設定がありますが物件都度決定下さい。

アンカーボルトの出は、天端から 30 ～ 40mm。M12。

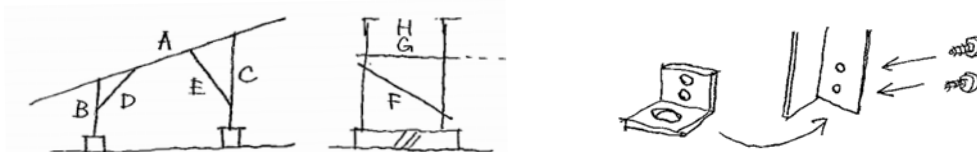
L=400 を使用すると、途中を曲げ加工することになるため、L=250 などのボルトを利用して丸座金を入れて打設する方法もあります。

鉄筋はカラック防止のために必要です。



② 架台の組立て

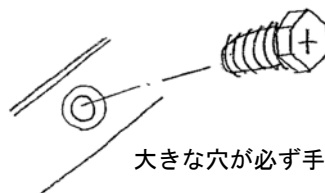
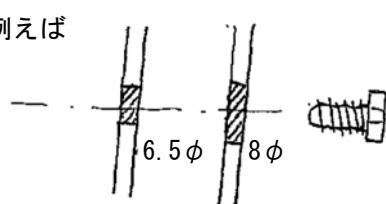
ア) 部材 B (前脚) と部材 C (後脚) にブラケット L 金具を取り付けます。



※ボルト・ナットの組立てではなくビスで組立てます。

ビス径は8φのため、重ね合わせて、径の大きな穴(8φ)が上に必ずくるように組立てます。

例えば

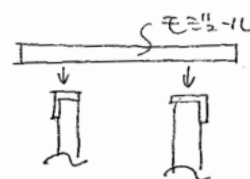
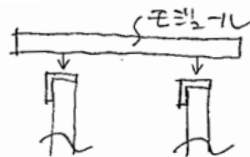


大きな穴が必ず手前に

※どちらを重ねれば良いかわからない場合の判断として
“大きな穴が手前にくる”として下さい。

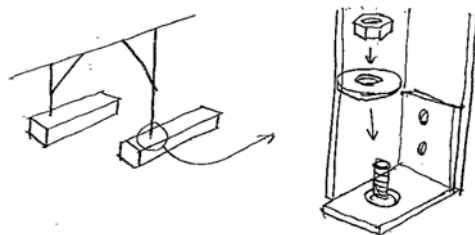
イ) ブラケットの取り付けられた A、B、C、D、E の部材を地面で平置きして
次々と組立てます。この A、B、C、D、E 材 2 対で 1 ユニットなのですが
方向は全て一方方向です。

この A、B、C、D、E の組立てを
次々と行います。



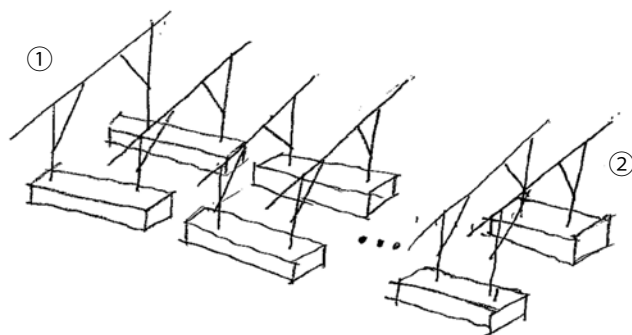
向かい合わせではありません。

組み上がったら基礎に建て、丸座 (ワッシャ)、ナットを手締めします。



手で締めた程度でも倒れません。

ウ) 両端の①と②のユニットを水平器などで垂直を確認しながら、アンカーのナットを締め込みます。

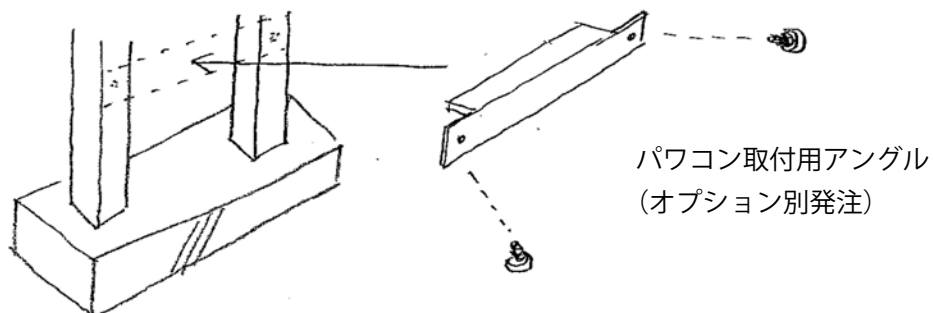


両端から水系を張り、その間のユニットの
先端と、後端が合致するようにアンカーに
ワッシャをはさんだりしながら、レベルを
合わせて、確認後固定します。

その倒れがズレないように F の斜材
G や H の横ツナギ部材を取り付けます。

全てアンカーナットの本締めが終了した時点で柱脚部のアンカーなどがメッキ不十分な部材などの場合に錆止めスプレー（シルバー）にて、塗布着色します。

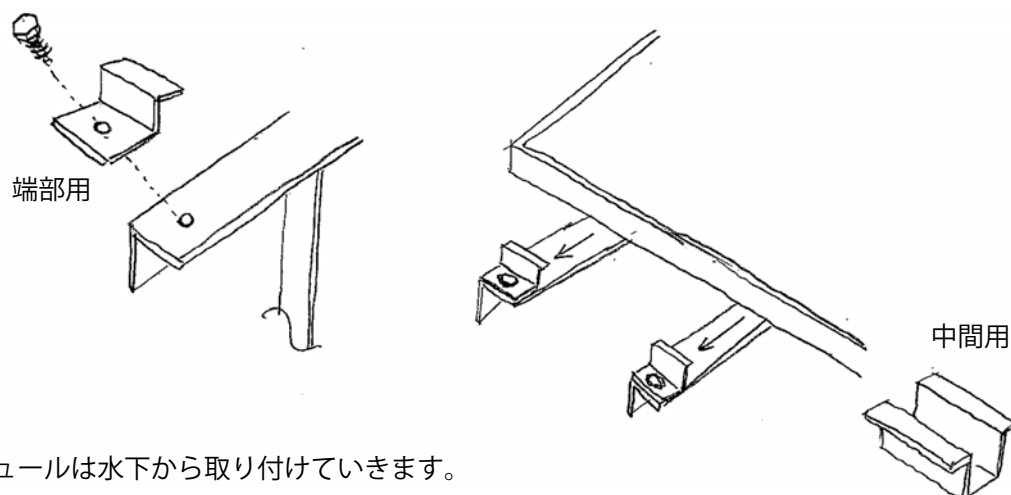
※ここで、パワコンの設置がアングル取付する場合には、
パワコンアングル用の穴を現場に向けて、ビスで取り付けておきます。



これで架台の組立ては完了します。

エ) ソーラーモジュールの取付け

架台の先に、端部用金具と同じビスで軽く遊びを残して取り付けます。



モジュールは水下から取り付けていきます。
留めつけ金具の下に、すべり込ませるように置き
次に中間用金具をビスの遊びを残して取り付けます。

次にソーラー、中間用金具→ソーラーモジュール→中間用金具→ソーラーモジュール
→端部材金具を取り付け、モジュールの縦、横がそろったか確認して、本締めを行います。

※2013年3月末頃より盗難防止ビスの供給が開始される予定です。
その盗難防止ビスは、モジュール2枚に1ヶ所程度使用します。

架台の下、モジュール裏面にて、モジュール間の結線を行います。